

# 掩体壕跡を発掘調査

## 熊本市初の立ち会い

掩体壕跡の発掘調査に立ち会う市職員ら

27日、熊本市東区



熊本市は27日、太平洋戦争中、旧陸軍の健軍飛行場近くに造られた同市東区戸島本町の掩体壕跡の発掘調査に初めて立ち会い、民間団体と一緒に作業した。

格納施設。幅18㍍、奥行き19㍍を、高さ約3㍍の土塁でC字型に囲む構造になっている。戦争遺構の調査保存に取り組む「くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク」などが1月に確認し、4月に発掘調査による記録保存を市に要望していた。今回の調査は、同ネットワークや土地所有者が実施し、市文化振興課の職員や作業員ら8人も参加。壕の溝の詳細を知るため、重機で約2㍍掘った後、作業員らが壕を覆っていた屋根の柱の痕跡などがない

か調べた。

濱田安弘課長は「戦争遺跡を地域の歴史として伝承する意味は大きい。貴重な発掘物があれば、保存や記録を検討したい」と話した。

(前田晃志)